



図1 パナマ中部の典型的な繁殖地で鳴く雄のトゥンガラガエル。雄の大きな鳴嚢は、その複雑な鳴き声と同様に特徴的だ。

写真：Ryan Taylor



図2 営巣中のトゥンガラガエルのペア。雌をかかえながら雄が上に乗って抱接中。泡巣は雄が後肢でゼリー状のものを泡立ててつくる。一時間ほど根気強く泡巣をつくったあと、雄は見るからに疲労している。

写真：Ryan Taylor



図3 トウンガラガエルを捕まえたコウモリ [*Trachops cirrhosis*]。このコウモリは鳴いているカエルの位置を、鳴き声だけで突き止められ、カエルの居場所を反響定位で割り出す必要がない。パナマ中部では、トウンガラガエルが彼らのお気に入りの餌である。

写真：Merlin Tuttle、Merlin Tuttle.org



図4 飾り羽を立てて、雌に求愛をする雄のクジャク。飾り羽は雌にとっては魅力的だが、この美しい構造物が、それを見るたびに気分が悪くなるとダーウィンが吐露したものだ。

写真：Jyshah Jysha

<https://margotstabin.wordpress.com/2014/10/20/pride-and-peacocks>





図5 ドウグロタマリンはブラジルバイーア州の低地の熱帯林に生息する絶滅危惧種である。彼らは社会的集団をつくって暮らし、雌雄双方が子ザルや若い個体の面倒を見る。彼らの配偶システムについては、ほかにはほとんど知られていない。このサルが世界で最も美しい霊長類だと考える人もいる。

写真：Steve Wilson

<https://flickr.com/photos/26811962@N05/9221310569>. Licensed under Creative Commons Attribution 2.0 Generic



図6 性選択によって雌雄が極端に異なることがよくある。これらの写真のクビワトカゲのように、多くの種では雄のほうが雌よりも飾り立てている。色とりどりの雄（上）は、地味な雌（下）と好対照である。

写真：A. K. Lappin





図7 ピーコック・スパイダー〔*Maratus*属、写真の種は *Maratus amabilis*〕はハエトリグモ科のクモである。雄の色鮮やかなディスプレイはクジャクを思わせる。美しく飾られた腹部は、雄が雌に求愛するときだけ逆立てられ、その際に雄は腹部を前後に揺らして相手に誘いかける。

写真：Jurgen Otto



図8 ベニフウチョウはインドネシア原産。写真の個体は雄で、長いワイヤー状の二本の尾羽が特徴的だ。求愛時には、このワイヤーが雄を中心にハートの輪郭をつくるように見える。

写真：Tim Lehman



図9 雄のソードテール・カラシン（右）は、トリニダード・トバゴ、ベネズエラ、コロンビア原産で、餌に見える肉の塊がついた胸ビレを左にいる雌のほうに伸ばす。雌はこの疑似餌に惹かれ、そうなると求愛が始まる。

写真：Nicolas Kolm





図 10 コートでディスプレイするオオニワシドリの雄が、雌からどのように見えるかを示した写真。

写真：John Endler





図 11 雌雄双方のホタルが見事な夜の視覚的ディスプレイに興ずる。その他多くの求愛ディスプレイと同様に、発光パターンは種ごとに特有のものがある。この写真は、テネシー州エルクモント近くのグレート・スモーキー・マウンテン国立公園からのホタル [*Photinus carolinus*] を低速度撮影したもの。

写真：Radim Schreiber



図 12 ケツァールはグアテマラの国鳥で、その姿は国旗に色を添える。華やかな雄のケツァールは世界で最も美しい鳥だと考える人もいる。初めてこの鳥を見たとき、私の双眼鏡は震え始めた。

写真：Dominic Sherony

コスタリカのサベグレで2011年4月15日に撮影されたケツァール〔*Pharomachrus mocinno*〕。Uploaded by Magnus Manske. Licensed under Creative Commons Attribution-Share Alike 2.0 Generic.



図 13 雄のクロスジヒトリ〔ヒトリガ科のガ〕がヘアペンシルと呼ばれる発香器官（コレマータ）を押し出す。血圧によって膨らむこの器官は、毛を通じて性フェロモンを分泌させる。

写真：Rodney and Smudge Foster Rentz



図 14 グッピーはその見事な体色で知られているだけでなく、その色が驚くほど変化に富んでいることでも知られており、トリニダードの溪流にいるグッピーはなかでも多様だ。ここに示したごく小さなサンプルでも、その多様性は際立っている。

写真：Cara Gibson and Anne Houde



図 15 ランと擬似交尾するシタバチ。この行動は不適応に見えるが、雌を見つけるためのハチの戦略からすれば理に適っている。雌の数は少なく、互いの距離も離れているため、雌に似たものがあればなんでも交尾したほうが、雄のハチにとっては望ましいのだ。

写真：Nicolas J. Vereecken



図 16 コオロギと、寄生するハエ [*Ormia ochracea*]。カエルを食べるコウモリがカエルの求愛音に惹きつけられるように、これらのハエもコオロギの求愛音に惹きつけられる。ハエは鳴いているコオロギに幼虫を産みつけ、すると幼虫はその体内に穿孔して、成長しながら雄のコオロギを内側から食べてゆく。

写真：Norman Lee